

依頼会話における 《雑談部》の展開ストラテジー

—ベトナム語と日本語の対照研究の観点から
ゲエンティ ニューイー

◆要旨

本稿では、日本語母語話者・ベトナム語母語話者それぞれにとって好ましい依頼会話の談話構造を明らかにするために母語話者同士の会話を分析した。特に、依頼者が被依頼者を依頼目的に関する話へと引き込むために、依頼行動開始に先立って依頼対象をめぐる事柄に関する雑談をお互いに交わす《雑談部》を中心として分析を行った。ベトナム語では、《雑談部》で依頼対象を話題にすることで、被依頼者に好奇心を与え、被依頼者から【状況説明要求】や【依頼申し出】が得られる展開が望ましいことがわかった。一方、日本語では、依頼の負担度が重いほど《雑談部》がより複雑に展開され、依頼の準備のステップにとどまっていることが明らかとなった。

◆キーワード

雑談部、依頼会話、展開パターン、
ベトナム語、日本語

◆ABSTRACT

This paper presents preferred structures of Request conversations carried out by native speakers of Vietnam and Japan. Particularly, this paper investigates how participants performed “Chat-part” which is aimed at providing requestee with background information of the circumstances. The results reveal that in Vietnamese raising the topic of the request through “Chat-part” was often employed because it arouses the curiosity of the requestee. Participants preferred this type of progression because the strategy gives requestee opportunities to “query the request”, to offer to “undertake the request”. In contrast, Japanese interlocutors assumed that “Chat-part” is faltering at the preparation stage. It is believed that the more complicated “Chat-part”, the higher the sense of burden and the greater the incidence of requests.

◆KEY WORDS

Chat-part, Request conversations, Pattern, Vietnamese, Japanese

The Strategies of “Chat-part”
in Request Conversations
From the perspective of comparative analysis of
Vietnamese and Japanese
NGUYEN THI NHU Y

1 はじめに

筆者は、ベトナムにおける日本語教育に携わってきたが、その経験から言えば、これまでのベトナムの日本語教育現場においては、依頼会話をはじめとした会話の指導は、語彙、語形の正確さといった文法項目、言語形式としての丁寧さのみに重点が置かれており、談話構造を重視した指導はほとんどなされてこなかった。ベトナム語母語話者の日本語学習者が円滑な会話を行うためには、依頼目的にふさわしい語彙、文法項目の運用にとどまらず、適切な依頼会話の談話構造を場面に応じて選択し、相手への様々な配慮を示すことが必要である。

本稿では、依頼会話、特に先行研究であまり扱われていない、依頼の前の雑談の部分に焦点を当てて分析し、日本語とベトナム語の依頼の仕方の異同について論じる。

2 先行研究

依頼の前置きや依頼の終結部など、依頼を談話構造の観点から見る対照研究はこれまでに多くなされている。以下、依頼の談話構造に関する研究を簡単にまとめる。

猪崎 (2000) は依頼談話の構成や発話機能の観点から、依頼談話が〈依頼予告〉〈先行発話〉〈先行発話応答話段〉〈依頼〉〈依頼応答〉〈依頼者また被依頼者の結論〉の順で構成されていると述べている。徐 (2006, 2007) は日本語母語話者および台湾人の依頼会話の構造について、〈先行部〉〈依頼部〉〈終結部〉から構成されていることを指摘した。張 (2002) では、依頼会話は〈先行予告〉〈先行発話〉〈依頼〉〈依頼交渉〉の流れで展開されていくという。これらの先行研究に共通しているのは、それぞれ用語は異なるものの、依頼会話の構造として〈依頼するまでの会話〉〈依頼〉〈依頼に関する交渉〉という展開となっている点である。従来の依頼会話の研究の主眼は〈依頼〉以降にあり、その中の〈依頼するまでの会話〉は、依頼に至る前の会話として一括して扱われている。

グエン (2014) は、日本語とベトナム語の依頼会話を、依頼者が依頼を行う

目的を持って話題を切り出すところから依頼を予告する前までの《雑談部》と、依頼会話の中心の部分で、雑談部の終了後から依頼行為が終結するところまでの《依頼部》の二つの部分に分けている。グエン (2014) によると、《雑談部》で行われる雑談は、依頼対象についての情報をお互いに求めたり、評価を交わしたりすることで、依頼者が被依頼者にこれからそれについて何か言う旨を伝え、被依頼者に唐突さを感じさせないよう、心構えをさせておくことができ、依頼の目的を成功させることに大きな役割を果たしていると指摘されている。また、グエン (2014) では、依頼対象に関する雑談を行わない会話が、両言語とも全く見られなかったと指摘されていることから、この雑談は両言語ともに必要な段階であり、《雑談部》が欠落すると日本語学習者が日本語母語話者と上手くコミュニケーションが取れないと考えられる。

以上のことから、本稿では、依頼に先立つ雑談を依頼会話の一つの重要な部分として扱い、分析を行っていきたい。

3 研究方法

3.1 研究目的

本稿の研究目的として次の2点を挙げる。

- (1) ベトナム語と日本語の依頼会話における《雑談部》を分析し、依頼場面の負担度によって雑談がどのように展開されているかを観察する中で、日本語母語話者・ベトナム語母語話者それぞれにとっての好ましい依頼のストラテジーを明らかにすること。
- (2) 異文化によるコミュニケーション上の摩擦、不愉快さなどを避けられるようにするために、日本語教育における依頼の言語行動の指導方法への提案を示すこと。

3.2 ロールプレイの場面設定

本稿で扱う分析データは、自然会話を資料とせず、ロールプレイの手法を用いて収集した。その理由は、自然な会話では諸条件が統制されず、状況や人間

関係が異なってしまう、両言語を対照することができないからである。ロールプレイに先立ち、日本語母語話者・ベトナム語母語話者それぞれが親しい関係ではどのような場面で依頼するかを確認するために、予備調査を行った。予備調査は、20代後半から50代の社会人と大学院生を中心とした日本語母語話者とベトナム語母語話者（各20名）を対象として、「ものを借りる・貸す」の負担度に関する意識調査（質問紙による調査とフォローアップインタビューの2種類）を実施した。予備調査の結果に基づき、以下の3場面（表1）を設定した。

表1 場面設定

	負担度	場面
場面1	軽	親しい同僚が読んでいる本が面白そうなので、読みたいと思い貸してもらおう。
場面2	中	来月のスピーチコンテストのビデオ撮影を担当するが、ビデオカメラを持っていない。ビデオカメラを持っている親しい同僚にビデオカメラを貸してもらおう。
場面3	重	ノートパソコンを買うために貯金しており、今月の給料が出たら買おうと思っていた。しかし、今なら電気屋さんのバーゲンで安く買えるので、同僚に1万円貸してほしいと頼む。

場面1および場面2は日常生活の中で親しい間柄に起こりやすい場面である。場面3のお金の貸し借りは、日本ではよほどのことがない限り起こり得ない場面だと予想されるが、ベトナムの場合は有り得ないわけでもない場面だと捉えられているため、「依頼しにくい場面」としてあえて設定することにした。

3.3 データ収集

調査協力者は、20代後半から40代後半までの日本語母語話者およびベトナム語母語話者、それぞれ男性同士のペア2組と、女性同士のペア3組の計5組ずつである。会話参加者の性別が会話に影響を与える可能性が高いことから、ロールプレイはすべて同性同士で行った。また、実際の会話にできるだけ近い会話にするため、実際に親しい関係にある相手とペアになってもらった。この各言語の母語話者5組に、上述の三つの場面における依頼のロールプレイをしてもらい、それを録音、文字化したものを分析データとして用いた。なお、本稿のデータは、対象者の居住地域が、日本語母語話者は関西地方、ベトナム語母語話者は中部地方と限られている。また、調査協力者が5組と少なく、ベト

ナムおよび日本全体への一般化が難しい点が調査の限界として挙げられるが、今後データを増やしてさらに考察を行う予定である。

3.4 分析方法

まず、ロールプレイで得られた依頼会話のすべての発話に発話機能ラベルをつけた。そして、以下の基準で、依頼会話の談話構造を《雑談部》《依頼部》の二つの部分に分けた。

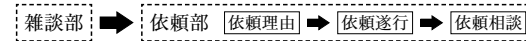


図1 依頼会話の全体構造

《雑談部》：依頼者が依頼を行うという目的を持って話題を切り出すところから依頼対象に関する雑談を被依頼者と交わして、依頼を予告する前までの談話の部分。

《依頼部》：《雑談部》の終了後から依頼行為が終結するところまでの部分。《依頼部》は、依頼者の依頼理由を説明したり、被依頼者の状況を確認めたりする〈依頼理由〉、依頼を明言したところから依頼を受けるかどうかが決まる時点までの〈依頼遂行〉、依頼を遂行するための手続きに関わるやりとりなどの発話から会話を終結する発話までの〈依頼相談〉の三つの部分に下位区分される。

本稿では、《雑談部》を中心とする両言語の特徴を、発話の連鎖と話題内容に注目して、以下で詳しく論じる。

4 分析結果および考察

《雑談部》は、両言語ともに、いずれの場面においても、ほぼすべての会話に現れていた。下の表2は日本語の依頼会話とベトナム語の依頼会話の《雑談部》における両言語の発話の連鎖を、展開パターンとして示したものである。

表2 依頼会話における展開パターン型のまとめ

場面	日本語	ベトナム語
場面1	① [依頼対象の情報要求-提供型]	① [依頼対象の情報要求-提供型]
場面2	① [関連情報要求-提供型] ② [所有確認要求-確認型]	① [関連情報要求-提供型] ② [所有確認要求-確認型]
場面3	① [関連情報要求-提供型] ② [所有確認要求-提供型]	① [関連情報要求-提供型]

4.1 負担度が軽い場面1

場面1の小説の貸し借りでは、依頼内容の負担が軽く、依頼対象が眼前にあることから、依頼対象に関する情報などを直接要求できるので、展開パターンは両言語とも① [依頼対象の情報要求-提供型] しか見られなかった。

日本語の会話例1では、依頼者は05JM1の「何読んでんの」のように、被依頼者の手元にある依頼対象の小説について話題を持ち出して依頼対象について情報を聞き出し、14JM2の【依頼対象への評価】によって、依頼対象が借りる価値のあるものだと確認した上で、《雑談部》を終了させている。このように、依頼者が被依頼者に情報を求めることで、被依頼者を自分の話に自然に引き込んでいる。

会話例1^[注1] 依頼者: JM1 被依頼者: JM2

05 JM1:	あれ?(1.1)何読んでんの?	依頼対象の情報要求
06 JM2:	え-「もしドラ」って知ってる?	依頼対象の情報提供
07 JM1:	あ.	依頼対象へ理解
08 JM2:	ちょっと前流行っ [たやつ.]	依頼対象の情報提供
09 JM1:	[知ってる, [それ!	依頼対象へ理解
10 JM2:	hhまじで? [(え)-hh	継続支持
11 JM1:	でも:(1.0)>あれもう<買ったんだ?	依頼対象の情報要求
12 JM2:	そうそうそう,買っちゃったちょっ [と:]	依頼対象の情報提供
13 JM1:	[どう?面白い?	依頼対象への評価要求
14 JM2:	ああ,めっちゃ面白いよ.	依頼対象への評価
15 JM1:	>今<どんぐらい?	状況確認要求

続いて、ベトナム語依頼会話の会話例2も同様に、07VF4の発話で話題に関するやりとりが開始され、その話題となった小説をめぐる情報をお互いに交換することで《雑談部》が展開されている。このように、両言語とも依頼対象の情報(本のタイトル、所有確認)を聞き出すことで、その依頼対象に関心を持っていることを被依頼者へ伝え、話を進めやすい雰囲気を作り、依頼を行いやすいタイミングで、《依頼部》の【状況確認要求】を行っている。特に、依頼者が13JM1「どう?面白い?」と依頼対象の評価を要求して被依頼者からの「めっちゃ面白いよ」などの評価を得たり、09VF3や14VF3で依頼者が依頼対象への評価を表したりすることで、その後の依頼を行う理由へとつなげることができている。

会話例2 依頼者: VF1 被依頼者: VF2

07 VF4:	=Ừ,mà đang đọc quyển chi↑ hay↑ rứa? Quyển chi mà↑ nhìn↑ đẹp↑ rứa?	あら、何の本を読んでいるの?面白そう?表紙のデザインが良さそうね。	依頼対象の情報要求
08 VF4:	À, cuốn ni là::cuốn tiểu thuyết mới: mua↓ à↓ mà↓.	あ、これは買ったばかりの小説だよ。	依頼対象の情報提供
09 VF3:	Nhìn cái đề hấp dẫn↑ rứa↑.	タイトルだけでも面白そうね。	依頼対象への評価
10 VF4:	Y Cầu Y đọc cuốn này chưa?	もう読んだ?	依頼対象の情報要求
11 VF3:	Ấm Y đầu Y.hhhh Đọc rồi thì kêu Y thấy Y hấp dẫn↑ làm↑ chi↑.	熱でもあるの?読み終わってたら聞く必要ないじゃない?	依頼対象の情報提供
12 VF3:	= Nội dung về↑ cái↑ chi rứa?	何について書いてあるの?	依頼対象の情報要求
13 VF4:	À:::, tiểu thuyết về:::chuyên:::(.) tình lãng mạn	うーん。ロマンチックな恋愛の小説だよ。	依頼対象の情報提供
14 VF3:	Ô cha↑.Đúng↑ gu↑ mình↑ luôn↑.hhhh.	あらそう。ちょうど読みたいジャンル。	依頼対象への評価
15 VF3:	= Đọc Y đến Y mô Y rồi?	どこまで読んでいる?	状況確認要求

このように、《雑談部》は、被依頼者に唐突な感じをもたらすことなく依頼行動に入るためのいわば準備の段階で、依頼を行うのに都合の良い環境、つまり依頼の場を作るためのものだと言える。

4.2 負担度の中程度の場面2

場面2では、展開パターンは両言語とも① [関連情報要求-提供型]、② [所有確認要求-確認型] の二つが見られた。

まず、① [関連情報要求-提供型] は、依頼対象と関連のある情報を間接的に相手に提供し、相手に自分の会話の目的に気づかせるものである。日本語の会話例3では、依頼者は英会話スクールに関する話題を提示して、自分がスピ

一チコンテストに出るという状況を理解してもらえよう詳しく説明している。

会話例3 依頼者：JF6 被依頼者：JF5

07	JF5: >あの<最近はあまりさ、寝-寝られなく [て::	関連情報提供
08	JF6: [あ、そんなに忙しいの	関連情報要求
09	JF5: そう、なん [か () hhh	関連情報提供
10	JF6: [↑そんなに忙(h)し(h)いんだ(h).hhh	関連情報への評価
11	JF5: .hなんか: [↑もす-あのね、今、(,) 英会(h)話(h)学校行っ [てるんだけどね、	関連情報提供
12	JF6: [あ:: [あ::	継続支持
13	JF5: .hあのその、もうすぐスピーチコンテス [トがあって、[その()	関連情報提供
14	JF6: [あ:: [その準備で	関連情報要求
15	JF5: そうなの\そ(h)うな [の、\	関連情報提供
16	JF6: (あhh) [結構真面 [目に、[(0.5)通ってるんだね、	関連情報への評価
17	JF5: きゃいけなく [て:: [h [結構真面目に、なんかね、そう覚えな	関連情報への評価同意
18	JF6: [あ:: [()]	継続支持
19	JF5: [すごい、先生も厳しい人で [さ:: .hh	関連情報提供
20	JF6: [それは] (0.6) [確かに [大変かも、 [hh.hh	関連情報への評価
21	JF5: [\それは] あ(h)の(h) [、 [hh ね::なんか [もう結構寝る時間もな [く、\	関連情報提供
22	JF6: [ん:: [hhhh	継続支持
23	JF5: [な-なんで [こんな頑張ってるんだろと思いながらも [..h	関連情報提供
24	JF6: [hhh [hhhhhh [で、わ発表会ってなる	関連情報への理解
25	JF5: そ: [、けっこう、(,) >しかも <年に1回しか [なくて [、>しかも <なん-ちょっと、 [()	関連情報提供
26	JF6: [ん:: [あ:: [s:: [sn\↑出るんだ、\	関連情報要求
27	JF5: あそ(h)hhそ(h)うそ(h)う、 [hhh	関連情報提供
28	JF6: [hhへ:: [::	関連情報への評価
29	JF5: ね、もう最近気合(h)いを入れて、 [うん、そうなのそ [なの:、それでちょっと	関連情報への評価同意
30	JF6: [え:: あ::	継続支持
31	JF5: まあ、自分の英語()力のためにも、	関連情報提供
32	JF6: はい	継続支持
33	JF5: 勉強になるかあとと思って、	関連情報提供
34	JF6: 英語はできといて、 [ね、損はない] し [ね::	関連情報への評価
35	JF5: [ね、損はない] [うん、	関連情報評価同意
36	JF6: そ::	関連情報への理解
37	JF5: (0.4)しかもね、その先生が、(,) なんか、(0.5)その()スピーチ (中略)	状況説明

依頼者は、07JF5の発話で「最近はあまり寝られなくて」という自分の近況について伝え、被依頼者の08JF6「そんなに忙しいの?」という質問を受けて初めて、英会話スクール的话题を持ち出している。ここでは、依頼者は、11JF5、13JF5、19JM1などの依頼目的と関係のある情報を自ら提供し、さらに、21JF5、23JF5、25JF5でスピーチコンテストのために一生懸命頑張っていることを伝え、その後依頼の理由となる【状況説明】へとつなげている。

同様に、ベトナム語の会話例4では、依頼者は依頼対象のビデオカメラに関することを直接話題とするのではなく、依頼対象のビデオカメラを次の話題として出しやすい「英語習得」「英語スクール」の話題から雑談を始めている。このように、両言語とも依頼者は、近況報告の雑談として「英語習得」「英語スクール」の話題を持ち出すことで、スピーチコンテストの話へと展開し、その時にビデオカメラが必要であるという【状況説明】へと話をつないでいく。この段階で依頼者は、目的を持って関連情報を提供しているが、被依頼者はそれに気づかないまま、雑談として話を進めている。このような方法によって、依頼者は相手に違和感や唐突さなどを与えることなく会話を進めようとしている。

会話例4 依頼者：VM1 被依頼者：VM2

9	VM1: Ở bữa ni::; ông:::tiếng Anh::lớp tiếng Anh bên trung tâm nở rãng rồi?	あのう、その英語スクールはどう?	関連情報要求
10	VM2: Cũng tạm tạm,ngữ pháp đó::thì hân::: cũng tạm tạm ↑ôn↑. Có điều nghe thì::nhanh quá nghe không được:còn nói thì::cứ cà chấp cà chạng↑ rúa↑.Chưa được chỉ↑ hết↑, nói chung↑à: nghe nói là↑ không↑ được↑ chỉ↑ hết↑:::Y như vật nghe sảm↑ rúa↑.<	まあまあ。文法なんかは大分よくなったけど、聴解と会話は下手くそなのよ。まあ、全然だめなんだ。まあ、ちんぷんかんぷんだなあ。	関連情報提供
11	VM1: Ờ.	そうか。	理解
12	VM1: = Bên lớp tui:tuần sau: hân:::tổ chức: thì hùng↑biện↑.	私のクラスは来週スピーチコンテストがあるのよ。	関連情報提供
13	VM2: À, hùng biện tiếng Anh à?	そうか。英語の?	関連情報要求
14	VM1: Ờ.	そう。	関連情報提供
15	VM1: = Hân biểu ghi hình lại:::mà tui không có máy ghi hình↑tới↑.	ビデオカメラに撮ってほしいと頼まれたんだけど、ビデオカメラを持ってない。	状況説明

次に、②〔所有確認要求-確認型〕について、日本語の会話例5では、依頼者はビデオカメラを借りるという目的に向けて、被依頼者がビデオカメラを持っていることの確認を求める依頼対象の【所有確認要求】によって《雑談部》

を始めている。ここでは、03JF3の【所有確認要求】に対して04JF4で確認がとれたことで、ビデオカメラを話題とする《雑談部》を展開していく。その後、06JF3で英会話スクールを話題を持ち出して08JF3、10JF3でのスピーチコンテストのためにビデオカメラが必要であることを伝え、その後の依頼の理由となる【状況説明】へとつなげている。

会話例5 依頼者：JF3 被依頼者：JF4

03	JF3:	JF4さんって、[] ビデオカメラ持ってたっけ?	所有確認要求
04	JF4:	[うん] ビデオカメラは、↑うん、えっとね、↑ちょっと古くてもいいの(に)やっ[たら持っているけど、	所有確認
05	JF3:	[うんうんうんうん	理解
06	JF3:	あ、ビデオカメラ-あ[のね、実は、((手をたたく音))私今英会話学校に通っ[てて、	関連情報提供
07	JF4:	[うん なんや、	[あ、そう 関連情報への理解
08	JF3:	でhh [h,hh(0.8)ちょっと(,)微妙やねんけど、ス [ピーチコンテストに出る [こ とになって、	[h 関連情報提供
09	JF4:	[hh す(h)ご(h)い(h)や(h)ん(h) [頑(h)張(h)って(h)る(h),h [hhh	[h 関連情報への評価
10	JF3:	[hで(h),あまりにも >ちょっと<かわいそうな姿を[ビデオに撮って、自分でもう一回見て泣く[うと¥思 うねんけど¥]	関連情報提供
11	JF4:	[hhhh)]	[hhhh 関連情報への理解
12	JF3:	h [hhその時に、] 私ビデオカメラ持ってなくて、=	状況説明

ベトナム語の会話例6では、依頼者は04VF6で依頼対象のビデオカメラを持っているかどうかに関して被依頼者に確認を求めるといふ発話で《雑談部》を開始している。その後、依頼者は06VF6でビデオカメラについて所有の経緯を求める。ここで被依頼者に08VF5で「お姉さんは何かに使いたいですか」と自分の意図に気づかせることに成功している。ゆえに、09VF6【状況説明】から、10VF5【依頼申し出】に至ったのである。なお、【依頼申し出】とは、依頼者が依頼しようとしている事柄を被依頼者が自分からすると申し出ることを指す。

会話例6 依頼者：VF6 被依頼者：VF5

04	VF6:	Mà hôm trước bữa::lê hội văn hóa, chị thấy em mang máy lên quay phim. Máy của em à?	で、この間の文化祭にビデオカメラ、持ってきたよね。あれはあなたの?	所有確認要求
05	VF5:	Dạ.	はい	所有確認
06	VF6:	Mua lâu chưa?	いつ買ったの?	依頼対象の情報要求
07	VF5:	Chắc phải cả năm rồi, mà có máy khi xài mới.	1年前くらいだけど、あまり使わないよ。	依頼対象の情報提供

08	VF5:	= Chị cần dùng gì chị à?	お姉さんは何かに使いたいの?	状況説明要求
09	VF6:	Chị định quay lại hình thi hùng biện tiếng Anh ấy mà.	英語スピーチコンテストの本番をビデオに撮りたいんだ。	状況説明
10	VF5:	Rửa chỉ lấy máy em mà quay. Em có dùng tối mới.	じゃ、私のやつを遠慮なく使って。めったに使わないから。	依頼申し出

このように、ベトナム語では依頼者はできる限り、被依頼者に依頼目的に気づかせることで被依頼者が依頼を申し出てくれることを期待しており、08VF5【状況説明要求】と10VF5【依頼申し出】を引き出すことに成功している。

ベトナム語母語話者にとっては、自分から依頼を行うより、被依頼者からの【依頼申し出】の方が望ましいため、【依頼申し出】をしてもらえるように、被依頼者に共感してもらいやすいような話題を選択するなど工夫する傾向がある。

4.3 負担度が重い場面3

場面3の依頼対象であるお金は、日本語母語話者にとって話題にするのがためらわれるものであり、それゆえ当然「お金に余裕があるか」のように、個人的な情報を聞き出しにくく、相手のお金に関する詳細な状況を確認することは難しい。場面3は日本語母語話者にとっては特殊な状況であるため、《雑談部》における展開パターンは①【関連情報要求-提供型】しか見られなかった。一方、ベトナム語母語話者にとっては、お金の貸し借りは、負担は重いがよく起こる依頼であり、お金と直接関わる話題を出しても支障がないと考えられるため、場面2と同様に①【関連情報要求-提供型】、②【所有確認要求型】が用いられている。

日本語の会話例7では、依頼者はお金を借りるといふ目的に向けて、05JF1でパソコンを話題とする【関連情報要求】を行って《雑談部》を始めている。依頼者が05JF1でパソコンの話題を持ち出すと、パソコンの調子が悪くなったという被依頼者の06JF2の訴えを受けて、08JF1では依頼者も同じ状況であることを伝えている。その後、被依頼者からの【関連情報要求】を受けて、依頼者は自分の状況を述べ、お金の話へとつなげている。

会話例7 依頼者：JF1 被依頼者：JF2

05	JF1:	ね、家でパソコン使ってる?	関連情報要求
06	JF2:	うん.(0.5)なんかね、最近すごく調子が悪くて..	関連情報提供
07	JF1:	ああ.	関連情報へ理解
08	JF1:	私もおんなじなんだけど、それで、hhまゝそろそろ買い替えたほうがいいかな: と思ってるんだけど.	関連情報提供
09	JF2:	もう何年使ってるやつ?	関連情報要求

10	JF1: もうね,3年使ってる.	関連情報提供
11	JF2: ああ,そろそろかな [:::]	関連情報へ理解
12	JF1: [ねえ:] で,ちょっとお金もためてるんだけど,	関連情報提供
13	JF2: あ,すごいね:::	関連情報へ評価
14	JF1: あ,いやあ,	関連情報へ評価同意
15	JF1: =で,ちょっとお願いがあるんだけど.	前置き
16	JF2: うん.	受け入れ
17	JF1: あ:のう,今(0.5)電気屋さんでバーゲンしてるのよね.[ほしいと思っているパソコン.	状況説明

このように、日本語母語話者は、「パソコンの買い替え」「貯金買い換え話題」を持ち出して被依頼者の共感を得た上で17JF1のような「電気屋さんのバーゲン」という「お金」を想起しやすい話題へと自然な流れで展開させており、被依頼者を自らの話に引き込もうとしている。

この、依頼対象と直接関連する「パソコンの買い替え」「貯金」のような話題の提示は、日本語の場面3の会話展開のストラテジーだと言える。それらの話題について、依頼者は、最初は被依頼者に情報要求をするという形で雑談を始めるが、雑談の話題が自分の目的から逸脱しないように、被依頼者からの【関連情報要求】がなされると、自分の状況について情報提供を行って、話題をめぐる雑談をしながら依頼目的へ誘導しつつ、《雑談部》を進めていっている。

一方、ベトナム語の依頼会話でも同様に①【関連情報要求－提供型】が観察されているが、4.2で述べたように、ベトナム語母語話者の依頼者は、自分が依頼しようとしている事柄を、被依頼者が自分からすると申し出してくれることを期待しているため、被依頼者の【依頼申し出】を引き出せるように、会話例8のように工夫を重ねて会話を展開している。

会話例8 依頼者：VF5 被依頼者：VF6

01	VF5: Chị (.) mà khi mở mới có lương chị hè?	お姉さん、いつ給料ももらえるんですかね?	関連情報要求
02	VF6: Thi::chác 26-27 chi đó. Công ty mình khi mở chẳng rứa.	26-27くらいかな。私達の会社はいつもそれくらいだよな。	関連情報提供
03	VF5: Ờ::=	そうか。	関連情報への理解
04	VF5: =chờ dài::: cả cố:::	首が長くなるほど待ってるのよ。	関連情報への評価
05	VF6: >Làm gì mà chờ lương ?<	何のことで待ってる?	状況説明要求
(中略)			
11	VF6: Một triệu thì tau cho mi mượn.	100万なら貸そうか。	依頼申し出

01VF5の発話で依頼者は、まず「給料の支払い日」の話題を持ち出して被依頼者に情報を要求し、02VF6の発話で被依頼者の情報提供を受けた後、03VF5で【関連情報への理解】を行っている。ここまでは、「給料の支払い日」に関する雑談とも見えるが、03VF5に続けて依頼者は【関連情報への評価】を行う。この04VF5は意図的に唐突になされており、それを受けた被依頼者が必ず事情を聞きたくするような発話である。実際、被依頼者はこれに対して05VF6で【状況説明要求】を行っている。ここで、依頼者は被依頼者が自分の会話の目的に気付いたと判断し、《依頼部》へと話を展開させていく。この04VF5の【関連情報へ評価】は《雑談部》と《依頼部》をつなぐ発話として働いており、被依頼者の側から《依頼部》を開始するきっかけが作られている。ベトナム語の《雑談部》は、このような工夫によって、被依頼者の【依頼申し出】を引き出し、依頼の目的達成へと向かっていく。

さらに、②【所有確認要求－確認型】にあたるベトナム語の会話例9は【前置き】を行うことで《雑談部》を始めている。01VF1の“VF2↑ni↑:::”「VF2さん」の【前置き】は、相手の名前の呼びかけだけのあいまいな発話であるが、柔らかい口調で、最後の音を伸ばして発話されていることから、表面的な呼びかけの意味だけではなく、何か言いたいことがあると相手に解釈させるものである。それに対する被依頼者の02VF2の発話は、単なる返事のみではなく依頼者の意図を理解していることが表されている。その後、依頼者は、03VF1の発話で被依頼者に【所有確認要求】を行っており、これによって被依頼者にお金に関する依頼を行うことを示唆している。

会話例9 依頼者：VF1 被依頼者：VF2

01	VF1: VF2↑ni↑:::--	VF2さん	前置き
02	VF2: Ủ,cái↑chi↑rứa↑mi?	うん、何の用なの?	受け入れ
03	VF1: Mày còn:::tiền↑đúng↑không? Mày↑có↑dùng chi không?	お金はまだあるよね。何か使いたいことがある?	所有確認要求
04	VF2: Ủ::cũng có↑::	そうだね.あるのはあるけど、	所有確認
05	VF2: =Mi cần dùng chi à?	何か使いたいことがあるの?	状況説明要求

この03VF1のような【所有確認要求】は、場面3の日本語依頼会話では行われなかったが、場面3のベトナム語依頼会話では使用されている。予備調査において、ベトナム語母語話者の「お金の貸し借り」に関する意識調査を行った

結果、ベトナム語母語話者にとって100万ドン程度のお金の貸し借りは、それほど負担が重くないと感じる人が多く、特に親しい関係である相手に頼まれた場合、快く貸すことが多いことが確認できた。また、何らかの事情がある場合に、お金を借りようと思っている人は比較的気軽に依頼できるという結果も得られた。場面3のお金の貸し借りは、ベトナム語母語話者の依頼においては、小説やビデオカメラの貸し借りと同様に扱われているようである。

また、グエン(2014)では、【前置き】は日本語の依頼会話ではよく使用されているが、ベトナム語では、使用を避ける傾向にあると述べている。特に、友人関係の場合、「ちょっとお願いがあるんだけど」という【前置き】は、よそよそしさを与える。依頼の具体的な負担を軽減させることに有効であるどころか、相手に心理的な準備を前もって与えることで相手に負担を重く感じさせ、距離を置いてしまう可能性が高いために、使用されにくい。そのため、被依頼者にこれから依頼を行うという心理的準備を与える【前置き-受け入れ】の連鎖によって《雑談部》を展開するのは負担度が重い場面3に限られた特徴と言える。

4.4 まとめ

以上本稿では日本語とベトナム語の依頼会話における《雑談部》を分析した。

4.4.1 《雑談部》の展開パターンにおける両言語の相違点

負担度が軽い場面1では、両言語とも小説に関する情報などを直接要求できるため、〔依頼対象の情報要求-提供型〕が使用されていたが、負担が重くなる場面2に関しては、両言語とも〔関連情報要求-提供型〕の展開パターンが好まれ、間接的に依頼対象と関連のある情報を相手に提供し、相手に自分の会話の目的に気づかせようとしていた。ただし、場面3の依頼対象であるお金は、ベトナム語では、場面2と同様に〔所有確認要求-確認型〕〔関連情報要求-提供型〕によって展開されている。反対に、日本語母語話者にとっては、お金は話題にしにくく、相手のお金に関する状況を直接確認することができないため、〔関連情報要求-提供型〕しか見られなかった。

本稿の日本語の会話データから、日本語では《雑談部》は、依頼の負担度を問わず、《依頼部》に先立ち、被依頼者に唐突感を与えずに、自分の意図に沿っ

た話を行うという準備段階にとどまっている。その反面、ベトナム語の会話データから、《雑談部》の終了後、被依頼者から《依頼部》の【状況説明要求】をしてもらうという展開パターンが好まれることが明らかとなった。そのような展開ストラテジーを使用することで《依頼部》への足がかりを上手く作ることができ、【依頼申し出】を引き出すための準備のステップになると考えられる。

4.4.2 〔関連情報要求-提供型〕の話題選択による両言語の相違点

《雑談部》において持ち出された話題に関しては、両言語には大きな相違点が観察された。日本語の依頼会話の場面2では、スピーチコンテストに出場するのにビデオが必要だという話を単刀直入に行うより、遠回しに「最近あまり寝られなくて」のような自分の忙しさとその理由である「英会話学校に行っている」ことなど、間接的な話題から依頼へつなげていくという展開が好まれていた。同様に、場面3では、お金について直接的に言及する「給料」の話題ではなく、「パソコンの買い替え」から「貯金」の話題へ遠まわしに展開するという間接的な話題の方がよく見られた。

それに対して、ベトナム語母語話者にとっては、場面2のビデオカメラも場面3のお金の貸し借りも、「英会話学校に行っている」「パソコンの買い替え」あるいは「仕事の最終目的」といった間接的な話題より、「スピーチ大会に出る」といった話題、また、ベトナム語ではお金と直接関わる話題に支障がないため「給料日」「貯金の状況」といった直接的な話題の方が好まれることが観察された。グエン(2014)によると、ベトナム語母語話者は頼む側も気楽に頼み、受ける側も依頼を軽く受けられるのに対し、日本語母語話者は、依頼をなるべく避けようとしている。本稿のこのような相違点は、日本語母語話者よりベトナム語母語話者の方が依頼できる事柄の範囲が広いという文化的な違いと関わっていると考えられる。

5 おわりに

以上、本稿では、日本語とベトナム語の依頼の《雑談部》における両言語の異同を論じた。本稿で明らかになった結果の、ベトナムにおける日本語教育の

現場への応用としては、機能シラバスの日本語教科書を開発する際、【依頼】の機能のパートで活かすことができると考えられる。会話指導の際、指導の効果を高められるようにモデル会話を暗記させるのみならず、依頼会話を構成する発話機能とその展開パターンも指導すべきである。特に、依頼を開始する話題の選定、日本語母語話者の特徴である【前置き】の使用などについても留意して指導すべきである。本稿の結果が、日本語母語話者とベトナム語母語話者が接触する場面における異文化コミュニケーションの誤解や摩擦を最小限に抑えるのに有効なものになると考えられる。 (大阪大学大学院生)

注

[注1] …… 各会話例の白い部分が《雑談部》、網掛けの部分が《依頼部》である。

参考文献

- 猪崎保子 (2000) 「接触場面における「依頼」のストラテジー—日本人とフランス人日本語学習者の場合」『日本語教育論集世界の日本語教育』10, pp.129–145. 独立行政法人国際交流基金 <https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/archive/globe/10/index.html>
- 徐孟鈴 (2006) 「依頼会話【先行部】の考察—日本語母語場面、台湾人母語場面、日台接触場面のロールプレイデータを比較して」『言葉と文化』7, pp.67–84. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 徐孟鈴 (2007) 「依頼の先行部の考察—日本語母語場面、台湾人母語場面、日台接触場面のロールプレイデータを比較して」『言葉と文化』8, pp.219–238. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 張穎 (2002) 「依頼会話の展開パターンに関する日中対照研究」『言語文化と日本語教育』28, pp.8–14. お茶の水女子大学日本言語文化学会
- ゲン, ティニューイー (2014) 「依頼会話に関する日・越対照研究—談話構造を中心として」大阪大学大学院言語文化研究科修士論文